【日本史】

～ClassPad.net のファイルふせん・手描き機能を活用する～

大和王権の成立過程を理解する授業

様々な遺跡や資料から、古代国家がどのように形成されたかを確認する。

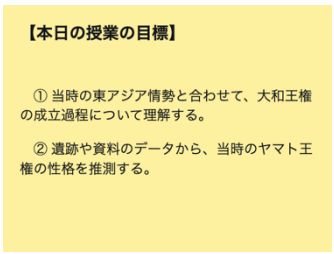
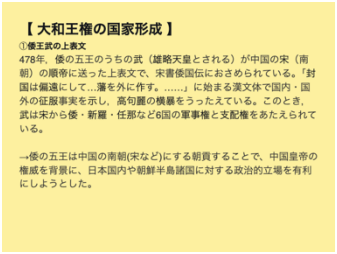
【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：同時代に起きた個々の出来事を体系的に理解したり、現代に残る遺跡から当時の状況を推測したりすることで、当時の国家形成の過程を総合的に理解する。

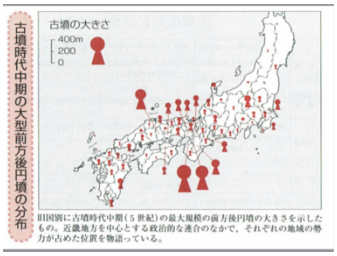
生徒向けの目標：資料の読解や当時の対外関係の学習を通じて、日本国内で古代国家がどのように形成されたかを体系的に理解する。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- **プリント削減**：役割分担や地図をデジタルノートやふせんで送信することでプリント量が削減できる。
- **授業準備の時短・効率化**：事前にデジタルノートへ地図・役割分担カードを入れておくことで，配布時間が短縮される。
- **探究学習促進**：オンライン辞書機能やデジタルノートで個別探究も深化でき、授業支援のグループワーク機能で協働探究も可能。

		授業の流れ	ClassPad.net での操作
step1		**目的・概要の説明** 様々な遺跡や資料を読み解き、日本の古代国家の成立過程を理解するという授業の目標を伝える。	
step2		**基礎的な事項の確認** 「倭王武の上表文」、「埼玉県と熊本県の古墳で出土した鉄剣、鉄刀の銘文に「ワカタケル大王」の文字が刻まれていること」、「475 年に百済が高句麗に攻められて滅亡→戦乱により先進技術が渡来人によって伝来→王権に組み込まれる」など教科書の太字重要語句を中心に、古代国家形成の流れを確認できる形で、用語の内容や意味を確認する。	リンクふせんやファイルふせん、教科書や資料集などを活用し、画像を提示する。 また、EX-word ふせんを使用して、用語の解説もあわせて行う。 ※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step3



地図の提示

中期古墳の全国的配置、有力古墳のサイズが記載された日本地図を提示し、生徒全員に共有する。

地図は事前にファイルふせんにしておき、授業支援機能を利用して生徒に送信する。

step4

【課題】
〈課題内容〉 中期古墳の全国的配置、有力古墳のサイズが記載された日本地図を見て、山刀剣の支配領域や大王と豪族の関係を推測する。

グループワーク①

複数のグループを作り、教師は各グループに課題内容を提示し、まずは各自で、次にグループ全員で比較・確認する。
〈課題内容〉
　地図中に示された古墳の配置やサイズから、具体的な王権の支配領域や当時の大王と豪族の関係について推測し確認する。

課題が書かれたテキストふせんを電子黒板やプロジェクター等で投影し、全体に提示する。
生徒には、手描き機能を利用して、step3 で共有されたファイルふせんに課題の答えを書き込ませる。

step5

・古墳が東北南部から九州南部まで分布
→ヤマト政権の政治的影響力が及んでいた支配領域（ネットワークの範囲）が、**日本列島の広範囲に達していた**

・近畿以外でも大きな前方後円墳が作られているが近畿の古墳以上に大きな古墳は少ない
→地方の有力な豪族が大王に服属しながらも、**独自に勢力を伸ばしていた**

答え合わせ

大和王権の政治的影響力が及んでいた支配領域（ネットワークの範囲）が、東北南部から九州南部まで広範囲に達していたこと、有力な豪族が大王に服属しながらも独自に勢力を伸ばしていったことを、想定される解答として提示する。

課題で提示した画像と課題の提出状況一覧画面を電子黒板やプロジェクター等で投影しながら支配領域の具体的範囲を画像解説するなどし、のちにクラス全体で講評を行う。

step6



写真の提示

前期古墳と中期古墳におさめられた副葬品を比較できるような写真を提示する。

リンクふせんやファイルふせん、教科書や資料集などを活用し画像を提示する。
また、EX-word ふせんを使用して、画像に関する用語の解説もあわせて行う。

step7

〈課題〉
前期古墳と中期古墳の副葬品を比較し、相違点をグループ全員で議論する。
〈条件〉
教科書やインターネットを参照せず、画像を見て自ら判断する。

グループワーク②

step6 で提示された副葬品を比較し、相違点をグループ全員で議論する。
〈条件〉
教科書やインターネットを参照せず、生徒が写真を見て自ら考察する。

グループ内で「テキストふせん」に相違点をまとめる。また，「ファイルふせん」などを活用して画像を表示してもよい。最後にまとめた内容全体を教員に提出する。

step8

○前期の**呪術的性格**を持つ装飾品(埴輪や銅鏡など)から、後期の**武術的性格**を持つ装飾品(馬具や甲冑など)に変化している

○前期は石製、**銅製**の副葬品が中心であったが、中期には**鉄製**の副葬品が増加している

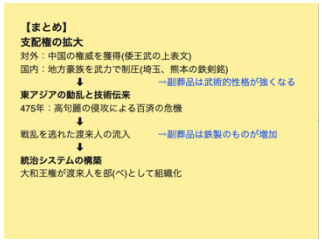
→**日本国内や朝鮮半島における戦乱**を背景に、**ヤマト王権の政治的、軍事的支配力の強大化**や、**大陸の新しい文化の浸透**を読み取ることができる(当時の朝鮮半島は高度な製鉄技術を持ち、鉄素材の産地であった)

答え合わせ

以前の呪術的な側面を持つ副葬品から軍事的側面を持つものに変化していること、鉄製の服装品が増えており、朝鮮半島からの影響がうかがえることを、想定される解答として提示する。

課題で提示した画像と課題の提出状況一覧画面を電子黒板やプロジェクター等で投影しながら各副葬品の特徴を画像解説するなどし、のちにクラス全体で講評を行う。

step9

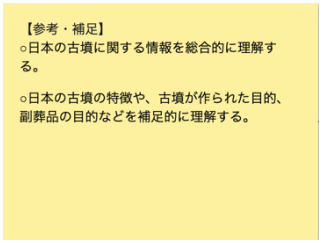


まとめ・宿題

遺跡や資料、当時の対外関係に関して、重要語句を中心に簡単な振り返りを行う。
最後に「5 世紀以降、古墳のあり方はどのように変わっていったかを調べてくる」という宿題を出す。

宿題は、内容が記載されたフォーマットを Word 等を利用して作成しておき、ファイルふせんにして、授業支援機能を用いて生徒に送信する。

step10



参考・補足

日本の古墳に関する情報を総合的に理解する。日本の古墳の特徴や、古墳が作られた目的、副葬品の目的などを補足的に理解する。

中期古墳だけではなく、古墳や埴輪の世界観などを解説するページ(https://www.isan-no-sekai.jp/feature/35_02)で、日本の古墳文化について理解を深めることができる。